

すめらみことかむあが
天皇の崩ります時に、
おほきさき
大后の作らす歌一首

一五九番

やすみしし 我^わが大^{おほき}君^みの 夕^{ゆふ}されば 見^めしたまふ
らし 明^あけ来^くれば 問^とひたまふらし 神^{かみ}丘^{をか}の 山^{やま}
の黄^{もみち}葉^ちを 今日^{けふ}もかも 問^とひたまはまし 明日^{あす}も
かも 見^めしたまはまし その山^{やま}を 振^ふり放^さけ見^みつ
つ 夕^{ゆふ}されば あやに哀^{かな}しみ 明^あけ来^くれば うら
さび暮^くらし あらたへの 衣^{ころも}の袖^{そで}は 乾^ふる時^{とき}も
なし

あるよみ
一書^いに曰^{いは}く、
おほきすめらみこと
天皇^{すめらみこと} 崩^{かむあが}ります時に、
おほきすめらみこと
太上天皇^{みうた}の製^{つく}らす歌^{みうた}二首

一六〇番

燃^もゆる火^ひも 取^とりて包^{つつ}みて 袋^{ふくろ}には 入^いるとい
はずや 逢^あはむ日^ひ招^をくも

一六一番

北^{きた}山^{やま}に たなびく雲^{くも}の 青^{あを}雲^{くも}の 星^{ほし}離^{はな}れ行^ゆき 月^{つき}
を離^{はな}れて